# \必修「探究」どう指導?/



# そんな実践型の教材をつくりました。



調べ学習で終わらない。グループワーク・発表・論文の質も変えていく。









# 『総合的な探究実践ノート』で何を身につける?

本書では、学習者(生徒)の探究活動に役立つ基本スキルや、他者の立場 を理解し協働して納得解へと導く力を磨いていきます。



振り返りまでを含めた探究実践のサイクルが、生徒の自走や成長を促し、論文や発表に よるアウトプット力の向上だけでなく、社会に出てからの組織活動やプロジェクト類の 企画推進などの場面で応用されていきます。



# 教材の構成と展開イメージ

探究実践の一連の流れを無理なく進めるために、探究の基礎トレーニング (第2章) からスタートし、実際の探究課題(第3章/第4章) へと段階的 に取り組んでいきます。

# 探究実践の「道具」を身につける。

## 探究の基礎トレーニング



ものの見方

**ものの兄**万 **探究の感覚を掴む** 



認知バイアス 判断への影響



紐解く・引き出す 問いの立て方



1つの事実に 複数の真実



知識を得る出所 知るための方法



建設的な議論 定義の重要性



個人的な知識・共有された知識 区別と理解



批判的思考をはじめとする様々なス キルを集約。

国際バカロレア(IB) の TOK(Theory of Knowledge) も参考



# 学校現場で取り組んだ7つのテーマ

最初の一歩に専門教科を選ぶことも

| 章       | タイトル                      | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 | 副教科 |
|---------|---------------------------|----|----|----|----|----|-----|
| 第3章-1   | 創られた自然観 -「自然を問い直す」-       |    |    |    |    |    |     |
| 第3章 - 2 | 「文化相対主義」から考える社会課題解決のための視座 |    |    |    |    |    |     |
| 第3章-3   | テクノロジーと民主主義社会             |    |    |    |    |    |     |
| 第3章-4   | 科学技術と倫理                   |    |    |    |    |    |     |
| 第3章-5   | スポーツ×テクノロジー×多様性           |    |    |    |    |    |     |
| 第3章-6   | 不変性と再現可能性                 |    |    |    |    |    |     |
| 第3章-7   | 発展途上国と先進国                 |    |    |    |    |    |     |



# 章 教科を深掘り 社会課題につなげて掘り下げた2つのテーマ

| Secretary of |                        |    |    |  |
|--------------|------------------------|----|----|--|
| 章            | タイトル                   | 国語 | 社会 |  |
| 第4章-1        | 文学と批評 -「独自性」という概念の探究-  |    |    |  |
| 第4章-2        | ビジネス・モデルと地域活性 ー課題探究ゼミー |    |    |  |

3

# 探究実践の「道具」を身につける。

探究の基礎トレーニン

# 探究の基礎トレをスタート

第2章のワーク①~②を通じて 探究の実践感覚に慣れていきます。

### 第 2 章

### 探究の基礎トレーニング

煙進授業時間: 4時限

認知バイアス

1つの事実に

複数の真実

定義の重要性

判断への影響

### はじめに

第2章では、探究を行うために必要であると思われる態度やスキルについてのトレーニングを行います。その際、 国際バカロレア(IB) のディプロマプログラム(DP) のコアの1つに位置づけられている「知の理論」(以下. TOK = Theory of Knowledge) 的な方法、思考も紹介します。具体的には、「知るための方法」「個人的な知識・ 共有された知識」などを、2013~21年の間に実施されていた旧カリキュラムを参考にまとめました。そして、問 いの立て方、認知バイアス、批判的思考(Critical Thinking)、振り返りなど、今後、探究的な課題に取り組む 上で必要となるだろうスキルと事柄に取り組みます。ここで扱ったこと、考えたこと、得たものは、この本の他の 課題に取り組む際にも役に立つでしょう。色々な使い方、取り組み方を自分で、また周囲の人と一緒に考えてみま しょう。

### 学習目標

### フーク **ものの見方の特徴を知り、探究について考えよう**総時間:50分

ものの見方は1つではないし、それは恣意的なものであることを認識します。「探究」とはどんなもの なのかを自分なりに定義し、とらえます。

### 7-22 本書の定義する3種類の問いについて知り、問いを立てよう総時間:50分

世の中の事象・事実に関する主張(記述)から、「事実に関する問い」作りを経て、探究の出発点とな る「概念的な問い」をつくれるようになります。

### ワーク3 TOK 的ツールを知り、考察しよう。認知バイアスを認識しよう 総時間:50分

TOKの旧カリキュラムで採用されていた考え方・ツール(と観点)である「知るための方法」「個人的 な知識と共有された知識」を知り、考察します。判断や認識に影響を与える認知バイアスを認識します。

### ワーク4 事実と真実、定義の重要性、批判的な思考、振り返り 総時間:50分

「事実」と「真実」の関係を認識します。探究の前提として、定義の重要性を認識します。ワーク①~ ④で扱ったことを踏まえ、批判的な思考の定義をします。振り返りで必要とされる内容を確認します。

## 批判的思考をはじめとする様々なスキルを集約。

国際バカロレア (IB) の TOK (Theory of Knowledge) も参考



ものの見方

探究の感覚を掴む



紐解く・引き出す 問いの立て方



知識を得る出所

知るための方法



個人的な知識・共有された知識

区別と理解

# 「ものの見方」を考えてみる

探究学習の現場で活用された 思考を刺激する問いを投げかけます。

### ワーク● ものの見方の特徴を知り、探究について考えよう

私たちのものの見方

さて、私たちは世界(自分以外のものごと)をどのようにとらえているのでしょうか。

下の図は小学生向けの日本地図です。これは現実の世界をそのまま写しているでしょうか。そうではないはず



**『 1** どのような点が現実世界と違うのでしょうか。2分で考え、グループで共有しましょう。考えたこと、グルー プの意見は下の枠にメモをとるようにしましょう。(個人2分, グループ5分)

大きさ、高さ、北海道と沖縄の位置、都道府県名の表示。 都道府県の境界線 の表示 省略されている島 湖や川、道路や鉄道、建物など

注 比較のために Google Earth, Google Map の航空写真な

では、現実と違うからこの地図には意味はないのでしょう

2 この地図からは何が分かるのでしょうか。書き出してみ

Q 立ち止まる時間をつくる

自分と他者のとらえ方の

グループで掘り下げる

日本列島の形、都道府県の形、都道府県の名前、都道府県の大きさと位置と位置関係、都道府県の境目な

**別1** と**別2** を考えることによって、地図は現実をそのま するためには役に立つということが分かるはずです。

8 第2章 探究の基礎トレーニング

教員用には生徒の話し合い を広げるヒントも掲載

## 他者の理解・合意形成に 重要なことを知る

教員は生徒の意見を拾い、背景にあ るものを考えることを促し、新しい 気づきに結びつけるサポートをしてい きます。



### 「個人的な知識」と「共有された知識」

p.11 の 『問いのあれこれ』 の項で紹介した 〈問い B〉 に対する回答が 人によって食い違った場合 議論や 争いになる可能性もあります。その食い違いの原因は、 自分が当たり前と思っていることが、他人の当たり前と 思っていることと違っていたというのが理由かもしれま



知識を「個人的な知識」と「共有された知識」とに分けて考えてみてはどうでしょうか。図のように、この2つ には重なる部分もあります。先の食い違いの原因は、個人的な知識と共有された知識の混同と言い換えることが できるでしょう。自分では、共有された知識であると思っていた事柄が、つまり、上の図で重なっていると思って いた部分が、実は重なっていなかったということです。

「共有された知識」とはグループに共有されたものですから、複数(多数)の個人によって作り上げられた、高 度に構造化された体系的な性質を持つものです。例えば、この文章は日本語で書かれていますが、筆者も読者も、 日本語という共有された知識を持っているから書く・読むということが成立しているわけです。また、これは時間

> 意見の食い違いを冷静に 受け止める視点も磨く

# 実績ある探究課題で実践。多様な教科を入口に、実社会で発揮できる力を磨く。社会課題への取り組み第3章・第4章



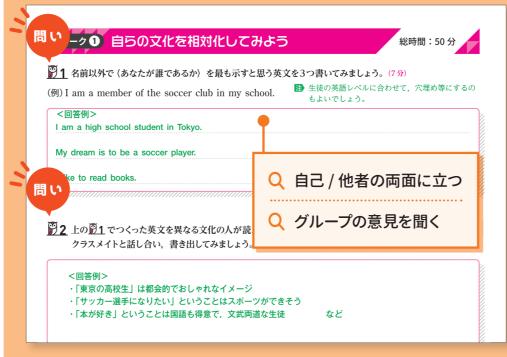
# 客観的に考えを俯瞰する

第2章のトレーニング内容をオーバーラップしながら 他者と関わる実社会に目を向けていきます。



# 「自己」と「世界」を比較する

違いを生む背景を考えていく問いを投げかけ クラスメートの意見にも耳を傾けます。



## ワーク② 世界の文化を相対化してみよう ○ 大の6人の生徒が作成したさまざまな国の文化についての紹介文を読んでみましょう。(5分) ① Sangmi: In Korea, young people have to wait until the older starts to eat. 2 Shray: In India, you have to eat using your right hand, not the left hand. ③ Rafa: Polygamy is common in Africa. When a man is married to more than one wife at a time. sociologists call this polygamy. 4 Abdu: Kikuyu people spit on other people's hands as a greeting. ⑤ Omar: A husband in Saudi Arabia divorced his wife for walking ahead of him. 6 Eric: In Rwanda, many men walk hand in hand with male friends to show their friendship. 〒11上の〒10の6人の生徒の中で、あなたが「受け入れられる」と感じる文化と「受け入れられない」と感じる 文化を分類し、クラスメイトと共有してみましょう。また、気づいたことをメモしておきましょう。(10分) 受け入れられる 受け入れられない 気づいたこと グループでも違いがあることに 人によって受け入れられる文化に違いがある しょう。 気づく

## 実社会の出来事に 反応するアンテナを育てる

日頃から疑問を持ち、問題と感じ、課 題を意識。偏った考えや判断に陥らな い基本姿勢を身につけていきます。

### 社会問題への興味関心・働きかけ



実社会にアンテナを立て 自分なりに社会への働きかけを考える人材

## (例)会社組織・海外駐在など



異なる背景を持つ人でチームを組み プロジェクトを推進していく

# ルーブリックを活用して学びの達成度を評価する。



# 探究の実践で 活性化(成長促進) したい観点

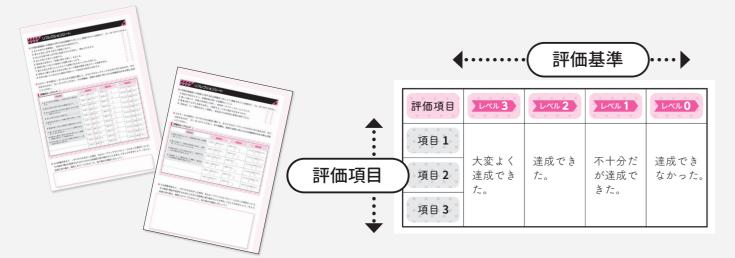


テスト形式の方法では評価が難しい観点について、評価対象や 内容に合わせて柔軟に調整できるルーブリックで評価します。

# ルーブリックの利点

評価の基準と項目数を調整できる
自校に適した設定をフレキシブルに

**2** 開始前にゴールが明確になる ● 学習目標や達成要素を提示

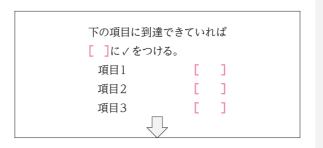


### 『総合的な探究実践ノート』

# ルーブリックによる評価の進め方

## 2段階でつける

●達成できたか?

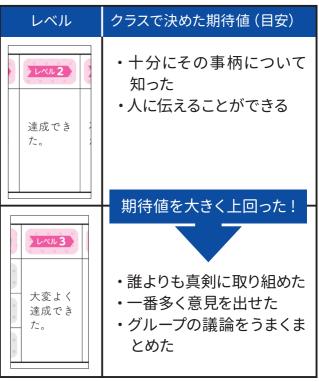


## 2その度合いは?

| 評価項目                 | レベル3               | レベル2       | レベル 1               | レベル〇          |
|----------------------|--------------------|------------|---------------------|---------------|
| 項目 1<br>項目 2<br>項目 3 | 大変よく<br>達成でき<br>た。 | 達成でき<br>た。 | 不十分だ<br>が達成で<br>きた。 | 達成でき<br>なかった。 |

## 達成度はどう選ぶ?

(例) 評価項目:ものの見方を認識する



イメージを言語化して共有しておく

## 誰が評価する?



参加者全員で



生徒の自走を促し、評価の食い違いがあっても説明し合うことで責任意識が高まります。

## 『総合的な探究実践ノート』で取り扱う 教材テーマ・関連教科の一覧



教材に収録するテーマと関連する教科の一覧表です。 探究的な指導を推進してきた教員が学校現場で取り組んできた生きた教材 を使って、指導の経験値を高め、生徒の成長へと効果的につなげていきます。

| 章   | タイトル                           | 共通        | 国語 | 社会 | 数学   | 理科              | 英語 | 副教科 | 教材執筆所属            |                              |
|-----|--------------------------------|-----------|----|----|------|-----------------|----|-----|-------------------|------------------------------|
| 第2章 | 探究の基礎トレーニング                    | •         |    |    |      |                 |    |     | 福島浩介立命館宇治中学校・高等学校 |                              |
| 第3章 | 教科横断的課題解決の取り組み                 |           |    |    |      |                 |    |     |                   |                              |
|     | 1. 創られた自然観                     |           |    |    |      |                 |    |     | 沖奈保子              | ドルトン東京学園中等部・高等部              |
|     | 一「自然」を問い直す 一                   |           |    |    |      |                 |    |     | 佐野寛子              | 都立小石川中等教育学校                  |
|     | 2.「文化相対主義」から考える                |           |    |    |      |                 |    |     | 木之下瞬              | ドルトン東京学園中等部・高等部              |
|     | 社会課題解決のための視座                   |           |    | •  |      |                 |    |     | 田中理紗              | かえつ有明中・高等学校                  |
|     | 3. テクノロジーと民主主義社会               |           |    |    |      |                 |    |     | 武藤哲司              | アオバジャパン・インターナショナル<br>スクール高等部 |
|     | 3. アクノログ一と民主主義任云               | ジーと民主主義社会 |    |    | 宗正久志 | 関西学院千里国際中等部・高等部 |    |     |                   |                              |
|     | 4. 科学技術と倫理                     |           |    | •  |      | •               |    |     | 川本健太郎             | 立命館宇治中学校・高等学校                |
|     |                                |           |    |    |      |                 |    |     | 小竹知紀              | 立命館宇治中学校・高等学校                |
|     |                                |           |    |    |      |                 |    |     | 福島浩介              | 立命館宇治中学校・高等学校                |
|     |                                |           |    |    |      |                 |    |     | 片田千尋(共同著者)        | 兵庫医科大学 看護学部                  |
|     | 5. スポーツ×テクノロジー×多様性             |           |    |    |      | •               |    | •   | 藤原亮治              | 筑波大学附属坂戸高等学校                 |
|     | 3.7/3. フハアファロン ハラ派圧            |           |    |    |      |                 |    |     | 本弓康之              | 筑波大学附属坂戸高等学校                 |
|     | 6. 不変性と再現可能性                   |           |    |    |      | •               |    | •   | 佐野武               | 県立高知国際高等学校                   |
|     |                                |           |    |    |      |                 |    |     | 宅明健太              | 学校法人茂来学園<br>大日向小学校・中学校       |
|     | 7. 発展途上国と先進国                   |           |    | •  | •    |                 |    |     | 佐野武               | 県立高知国際高等学校                   |
|     |                                |           |    |    |      |                 |    |     | 西田浩之              | 武蔵野大学附属千代田高等学院               |
| 第4章 | 教科単独の取り組み                      |           |    |    |      |                 |    |     |                   |                              |
|     | 1. 文学と批評<br>ー「独自性」という概念の探究 ー   |           | •  |    |      |                 |    |     | 井上志音              | 灘中学校・高等学校                    |
|     | 2. ビジネス・モデルと地域活性<br>ー 課題探究ゼミ ー |           |    | •  |      |                 |    |     | Datta Shammi      | 岡山理科大学 教育学部                  |

# 大学進学の現状と 社会・企業が求める人材像

# 大学生の 51%が総合型・学校推薦型の選抜で進学

文部科学省「令和3年度国公私立大学入学者選抜実施状況」より



# "探究"は社会・企業が期待する「社会人基礎力」につながる

経済産業省「人生 100 年時台の社会人基礎力」より



# \ ご検討用資料をお送りします/

# 『総合的な探究実践ノート』(採用専用教材)



格:1,300円(税込み)

1,182円(税抜き)

ページ数:144ページ

判 型:A4 判

# ▼資料請求

探究の指導に取り組む教員の皆様を対象に、増進堂・受験研究社では教材採用 のご検討用資料をお配りしています。

ご希望の方は、下記 QR コード先の資料請求ページよりお申し込みください。

「探究」に関する セミナーや最新情報も お届けしていきます。



※ホームページ

(https://teachers.zoshindo.co.jp/) の 資料請求ボタンからもお申し込みいただけます。





TEL (06)6532-1581(代表)

FAX (06)6532-1588 ホームページ https://teachers.zoshindo.co.jp/